

令和2年度 土木学会賞候補の募集

技術賞、吉田賞、田中賞、技術開発賞、
出版文化賞、国際貢献賞、国際活動奨励賞、
国際活動協力賞および技術功労賞

令和2年度学会賞（技術賞、吉田賞、田中賞、技術開発賞、出版文化賞、国際貢献賞、国際活動奨励賞、国際活動協力賞および技術功労賞）候補の募集をいたします。別記募集要項および表彰規程、応募に際しての留意事項をご確認のうえ、ご応募いただきますようお願いいたします。

推薦（応募）書用紙は下記の本会ホームページから入手できます。

なお土木学会賞のうちの功績賞については公募いたしません。また、本年度の環境賞、研究業績賞、論文賞、論文奨励賞の募集は9月30日で締め切りました。

公益社団法人 土木学会

〒160-0004
東京都新宿区四谷1丁目（外濠公園内）
TEL 03-3355-3442
E-mail : office@jsce.or.jp
<http://www.jsce.or.jp>

土木学会賞候補募集要項

種別項目	技 術 賞	吉 田 賞
選考対象	<p>【Iグループ】 土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められるインフラの計画、設計、施工または運用やメンテナンス等の画期的な個別技術。(いわゆる「ハード技術」のみならず、情報システム、マネジメント手法、ビジネスモデル、制度の導入等の「ソフト技術」についても対象とする)</p> <p>【IIグループ】 土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる画期的なプロジェクト。(新設プロジェクトのみならず更新やリノベーションプロジェクト等も含む)</p>	<p>【研究業績部門】 コンクリートに関する技術の進歩、発展に顕著な業績を挙げたと認められる者を対象とする。</p> <p>【論文部門】 土木学会の刊行物に発表されたコンクリートに関する単独の論文または報告等で、コンクリート工学の発展に大きく貢献したと認められるものを対象とする。</p>
受賞主体	<p>【Iグループ】 個人あるいは団体(本会会員資格の有無を問わない)。</p> <p>【IIグループ】 プロジェクトに関わった団体(本会会員資格の有無を問わない)。</p>	<p>【研究業績部門】 個人(本会会員資格の有無を問わない)。ただし、既受賞者(研究業績部門で昭和60年度以降授与された者)は受賞候補者となることはできない。</p> <p>【論文部門】 個人またはその複数(本会会員資格の有無を問わない)。ただし、共著者の一部を除いて受賞候補者を推薦する場合、推薦者は必ず受賞候補者の貢献について具体的に明記すること。</p>
選考の範囲	<p>【Iグループ】 2019年1月1日から2020年12月31日までの間に適用され、その効果が認められた業績とする。</p> <p>【IIグループ】 2019年1月1日から2020年12月31日までの間に完成し、その効果が認められたプロジェクトとする。</p>	<p>【研究業績部門】 2020年12月31日までの業績とし、各種刊行物に発表された論文または設計・施工・計画・考案などの報告等を参考とする。</p> <p>【論文部門】 2019年1月1日から2020年12月31日まで(2年間)の間に発表されたものとする。</p>
応募の方法	<p>応募は推薦とする。推薦者は正会員(個人、法人)、特別会員および土木事業に関連する学・協会とし、自薦も認める。 推薦者は別に定める様式により推薦書、選考対象業績の要旨(推薦書別紙)各1部を提出する。なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。これらの提出物は、すべてPDFファイルとし、表彰委員会ホームページから電子的に提出する(上限は100M Byte)。</p>	<p>【研究業績部門】 応募は推薦による。 推薦者は、正会員(個人、法人)および特別会員とし、自薦も認める。 推薦者または選考対象者は、別に定める様式による「送り状」および「推薦書」と、候補者により発表された主要な3編程度の論文または報告等を1つのPDFファイルに統合し、電子メールにより提出する。</p> <p>【論文部門】 応募は推薦による。 推薦者は、正会員(個人、法人)および特別会員とし、自薦も認める。 推薦者または選考対象者は、別に定める様式による「送り状」および「推薦書」と、候補者により発表された論文または報告等を1つのPDFファイルに統合し、電子メールにより提出する。</p>
選 考	表彰委員会において行う。	吉田賞選考委員会において行う。
内容説明会開催の有無	<p>内容説明会を2021年3月5日(金)に開催し、選考対象業績について、関係者による説明を受ける。なお内容説明会は、インターネットにより、一般公開される。 説明の際にはパソコンを使用し、パワーポイントにより行うこととする。 実施方法の詳細については事務局から別途通知する。</p>	開催しない。
表 彰	定時総会において行い、賞状、賞牌を贈る。	定時総会において行い、賞状、賞牌を贈る。
締 切 期 日	2021年1月20日(水)(17:00必着)	2021年1月20日(水)(17:00必着)
提 出 先	<p>提出は下記HPの記載に従って、電子的に提出する。 URL: http://committees.jsce.or.jp/hyosho/ (問合せ先・連絡先) 160-0004 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) 土木学会表彰委員会 TEL: 03-3355-3442</p>	<p>160-0004 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) 土木学会吉田賞選考委員会 TEL: 03-3355-3442/E-mail: office@jsce.or.jp</p>

種別項目	田中賞	技術開発賞
選考対象	<p>【業績部門】 橋梁に関する技術の進歩、発展や事業の形成・実施、調査、計画、設計、製作・施工、維持管理等における実践等において、顕著な業績を挙げたと認められる者を対象とする。受賞主体は個人とする。</p> <p>【論文部門】 土木学会刊行物に発表された論文、報告等の中で、計画、設計、製作・施工、維持管理、利活用、考案、歴史・文化、普及・啓発などに関連して、橋梁工学への貢献が大きいと認められるものを対象とする。受賞主体は個人またはその複数とする。</p> <p>【作品部門】 新設あるいは既設の橋梁およびそれに類する構造物で、計画、設計、製作・施工、維持管理、更新、復旧などの面において特色を有する優れた作品を対象とする。なお、構造物に適用された特殊な技術、革新的な技術も作品とみなす。また、規模の大小は問わない。</p>	<p>計画、設計、施工、または維持管理等において、創意工夫に富むと認められる技術（情報技術、マネジメント技術を含む）を開発、実用化し、土木技術の発展を通じて、社会に貢献したと認められる者。</p>
受賞主体	<p>【業績部門】 個人（本学会員資格の有無を問わない）。ただし、既受賞者（研究業績部門あるいは業績部門）は受賞主体となることはできない。</p> <p>【論文部門】 著者全員（本学会員資格の有無を問わない）。</p> <p>【作品部門】 団体（本学会員資格の有無を問わない）。</p>	<p>個人またはその複数（5名以内）（本学会員資格の有無を問わない）。</p>
選考の範囲	<p>【論文部門】 2019年1月1日から2020年12月31日までの間に土木学会刊行物に発表された論文、報告で、原則として1編とする。</p> <p>【作品部門】 2018年1月1日から2020年12月31日までの間に完成した作品を対象とする。</p> <p>完成の時期については、原則的には供用開始のときとする。なお、その他一連の工事の一部としての橋梁等の構造物では、そのもの自身が完成したとみなされるときとする。ただし、軌道、舗装等は未施工でもよい。</p>	<p>技術開発の行われた時期は問わないが、概ね最近5か年以内に実績が認められ、その技術内容を技術雑誌等に公表したものとする。ただし、実績は、実際に供用される構造物に適用されている等、現時点で既に社会に貢献していると認められるもの（選考対象の技術を使用した施工が完了しているもの）とし、これ以外の試験施工等の技術検証は実績として認めない。</p>
応募の方法	<p>応募は推薦による。なお、以下の提出物は、HPの記載に従って、電子的に提出する。</p> <p>【業績部門】 推薦者は、正会員（個人、法人）および特別会員とし、自薦も認める。推薦者は別に定める様式による推薦書ならびに参考資料を提出する。</p> <p>【論文部門】 推薦者は、正会員（個人、法人）および特別会員とし、自薦も認める。推薦者は、別に定める様式による推薦書と、候補論文を提出しなければならない。</p> <p>【作品部門】 推薦者は、正会員（個人、法人）、特別会員および土木事業に関連する学・協会とし、自薦も認める。推薦者は別に定める推薦書を提出する。</p>	<p>応募は推薦による。</p> <p>推薦者は、正会員（個人、法人）、特別会員および土木事業に関連する学・協会とし、自薦も認める（推薦者はすべて個人名とし、法人会員、特別会員、海外分会、土木事業に関連する学・協会および海外協力協定学協会についてはそれぞれを代表する者あるいは土木学会長の認める者とする）。</p> <p>推薦者は、別に定める応募調書を1部提出する。応募調書の送付にあたっては、当該電子ファイル、技術概要書（A3判-横長）および当該業績と選考対象者の技術関与を説明するのに必要な資料（学会論文集・技術雑誌・テクリス・コリンズ・会議資料等）3編程度をPDFファイルに変換し、必ずウィルスチェックを行ったうえで、技術開発賞選考委員会ホームページから電子的に提出する（上限は100M Byte）。</p> <p>応募調書には、推薦理由、開発された技術の実績または応用例、その他必要な事項を明記しなければならない。なお、必要に応じ資料部数の追加を求めることがある。</p>
選考	<p>田中賞選考委員会において行う。</p> <p>なお、必要のあるときは、さらに関係資料の提出を求めることがある。</p>	<p>技術開発賞選考委員会において行う。</p>
内容説明会開催の有無	<p>作品部門については、内容説明会を2021年2月26日（金）に開催するので、候補関係者はこれに出席して作品の内容を説明しなければならない（実施については事務局から別途通知する）。</p> <p>説明の際に使用できる機器：パソコン（html形式またはパワーポイントにて作成すること）</p>	<p>選考対象者に出席を求め説明を受ける（2021年2月24日（水）とする。発表日および発表時間の希望は受けない）。内容説明会ではパソコンを使用することができる（実施については技術開発賞選考委員会から別途通知する）。</p>
表彰	<p>定時総会において行い、賞状および賞牌を贈る。</p>	<p>定時総会において行い、賞状、賞牌を贈る。ただし、受賞者が複数の場合は、賞状は全員に贈り、賞牌は代表者に贈る。</p>
締切期日	<p>2021年1月20日（水）（17：00必着）</p>	<p>2021年1月20日（水）（17：00必着）</p>
提出先	<p>提出は下記HPの記載に従って、電子的に提出する。</p> <p>URL：http://committees.jsce.or.jp/tanaka_sho/ （問合せ・連絡先） 160-0004 東京都新宿区四谷1丁目（外濠公園内） 土木学会田中賞選考委員会 TEL：03-3355-3442</p>	<p>提出は下記HPの記載に従って、電子的に提出する。</p> <p>URL：http://committees.jsce.or.jp/kaihatsu_sho/ （問合せ・連絡先） 160-0004 東京都新宿区四谷1丁目（外濠公園内） 土木学会技術開発賞選考委員会 TEL：03-3355-3442</p>

種別項目	出版文化賞	国際貢献賞、国際活動奨励賞 および国際活動協力賞
選考対象	出版文化賞は土木に関連する出版物で、土木工学・土木技術の発展に貢献し、あるいは読者に感銘を与えることにより、土木文化活動の一環となりうると認められた出版物を対象とし、その著者を表彰する。	【国際貢献賞】 日本国内外の活動を通じて、国際社会における土木工学の進歩発展あるいは社会資本整備に貢献し、その活動が高く評価された日本人、並びに日本の土木工学の発展あるいは日本の土木技術の国際交流に貢献したと認められた外国人。(※日本以外の国籍を有する者) 過去に国際活動奨励賞を受賞した者も選考対象となりえる。 ※「国際貢献賞」は、学術、技術、事業等における地道な国際的な貢献の積み重ねの成果に対して授与されます。この趣旨を十分にご配慮ください。 【国際活動奨励賞】 海外における土木工学の進歩発展あるいは社会資本の整備において、現地での土木技術の発展に寄与し、国際貢献への活動が今後とも期待される日本人で、2021年の4月1日現在で満50歳以下である者。 【国際活動協力賞】 日本国内もしくはその他の国において、日本との交流・協力を通じて土木工学の進歩発展あるいは社会資本整備に寄与し、今後とも活躍が期待される外国人で、2021年の4月1日現在で概ね満50歳以下である者。
受賞主体	個人または団体(本会会員資格の有無を問わない)。	個人(本会会員資格の有無を問わない)。
選考の範囲	以下の条件を満たす出版物を候補対象とする。 (1) 2017年12月18日から2020年12月17日の3年間に発行されたものであること。 (2) 市販された出版物あるいは図書館などでの公開が保証されている出版物(電子出版物を含む。但し土木学会出版物は除く)。 (3) 同一企画のもとで出版された複数の著作を一作品として応募する事も可能。 (4) 新規の著作として一定の水準を確保していること(ハンドブック、マニュアル、便覧の類、資格試験参考書、あるいは改訂版で一部のみが改訂されたもの等は除く)。 (5) 本賞は賞に値する作品の著者を表彰するものであることから、団体の場合は原則として執筆者名が明記されていること。 注) なお詳細は出版文化賞選考委員会HPに掲載の「土木学会出版文化賞候補・推薦にあたっての留意点」を参照のこと。	2020年12月末までの業績とする。
応募の方法	(1) 推薦資格者:正会員(個人、法人)、学生会員および特別会員とし、自薦も認める。 (2) 推薦件数:2件以内。 ・本会の理事、監事、支部長、委員会委員長、フェロー会員は3件以内。 (3) 推薦の手続き ・推薦作品に関する下記の項目を所定の推薦用紙(HPに掲載)にて出版文化賞選考委員会宛に提出する(提出方法は郵便、FAX、E-mail等いずれも可)。 a. 推薦者氏名・会員種別 b. 推薦者所属 c. 推薦者連絡先(住所・電話番号・FAX番号・E-mailアドレス) d. 推薦作品名・著者・発行所・発行年月日 e. 推薦文(推薦作品の優れている点、土木への貢献度を500字以内にまとめる) 注) 市販されていない出版物の場合は推薦書に必ず1冊以上を添えて提出(寄贈)のこと。一般に市販されている出版物の場合は推薦書のみで可。	応募は推薦とする。 推薦者は、名誉会員、フェロー会員、法人会員、特別会員及び海外分会、並びに選考委員会が認める土木事業に関連する官・学・協会・法人及び海外協力協定学協会とする。自薦も認め、自薦者の本会会員資格の有無は問わない。 推薦は、同一推薦者より各賞1名とする。 推薦者は別に定める推薦書を1部提出する。 なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。 これらの提出物は、すべてPDFファイルとし、国際貢献賞選考委員会ホームページから電子的に提出する(上限は100M Byte)。 注) 推薦はすべて個人名で推薦するものとし、団体についてはそれぞれを代表する者あるいは学会長の認めるものとする。
選考	出版文化賞選考委員会において行う。	国際貢献賞選考委員会において行う。
内容説明会開催の有無	開催しない。	開催しない。
表彰	定時総会において行い、著者に対して賞状、賞牌を贈る。受賞作品の出版社に対して感謝状を贈呈する。なお、共著、団体、翻訳の場合の表彰方法は委員会で定める。	定時総会において行い、国際貢献賞、国際活動奨励賞および国際活動協力賞の受賞者に賞状と賞牌を贈る。
締切期日	2020年12月17日(木)(17:00必着)	2021年1月20日(水)(17:00必着)
提出先	160-0004 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) 土木学会出版文化賞選考委員会 電話:03-3355-3596 FAX:03-3355-6055 E-mail:library@jsce.or.jp 出版文化賞に関するホームページのアドレスは以下の通りです。推薦要項の他、過去の受賞作品の紹介なども掲載しておりますので、ご利用ください。 http://committees.jsce.or.jp/pub_prize/	提出は下記HPの記載に従って、電子的に提出する。 URL: http://committees.jsce.or.jp/kouken_sho/ (問合せ先・連絡先) 160-0004 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) 土木学会国際貢献賞選考委員会 TEL:03-3355-3442 FAX:03-5379-0125

種別項目	技術功労賞
選考対象	<p>長年にわたる地道な努力の積み重ねを通じて土木工学の進歩または土木事業の発展に功労のあった者とする。</p> <p>技術功労賞の対象分野としては、次の6分野がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・研究・啓発 2. 調査・計画 3. 設計・監理 4. 用地・補償 5. 施工・検査 6. 管理・運用・防災・保全 <p>※「技術功労賞」は、「功績賞」とは性質を異にし、人目につきにくい業務に従事するなど地道な努力の積み重ねの成果に対して授与されるという趣旨を十分に考慮の上、推薦すること。</p> <p>※応募に際しての留意事項に示す受賞候補の例を参考にすること。</p>
受賞主体	個人（本会会員資格の有無を問わない）。
選考の範囲	2020年12月末までの業績とする。
応募の方法	<p>応募は推薦とする。</p> <p>推薦者は正会員（個人、法人）、特別会員および土木事業に関連する学・協会とし、自薦も認める。</p> <p>推薦者（応募者）は別に定める推薦書を1部提出する（令和2年度推薦書を使用する）。</p> <p>推薦書は本賞の趣旨を十分に考慮の上、受賞者としてふさわしいか、わかりやすく具体的に記述すること。</p> <p>特別な資料等がある場合には、参考資料を添付してもよい。</p>
選考	技術功労賞選考委員会において行う。
内容説明会開催の有無	開催しない。
表彰	定時総会において行い、賞状、賞牌を贈る。
締切期日	2021年1月20日（水）（17：00必着）
提出先	<p>160-0004 東京都新宿区四谷1丁目（外濠公園内） 土木学会技術功労賞選考委員会 TEL：03-3355-3442</p>

土木学会表彰規程

【総 則】	第1条	この規程は、土木学会細則第41条に規定する土木学会賞（総称）について定める。
【賞 の 構 成】	第2条	土木学会賞は、次に掲げる各賞により構成される。 (1) 功績賞 (2) 技術賞 (3) 環境賞 (4) 研究業績賞、論文賞および論文奨励賞 (5) 吉田賞 (6) 田中賞 (7) 技術開発賞 (8) 出版文化賞 (9) 国際貢献賞、国際活動奨励賞および国際活動協力賞 (10) 技術功労賞
【募集、選考および表彰方法】	第3条	土木学会賞に含まれる各賞の募集および選考にかかる業務を行うため、表彰委員会（以下「委員会」という）および各選考委員会を設置する。委員会および各選考委員会の活動については、別に定める。
【功 績 賞】	第4条	2 土木学会賞受賞者等は、委員会の推薦に基いて理事会で決定し、原則として毎年定時総会において表彰する。 功績賞は、土木工学の進歩、土木事業の発達、土木学会の発展に顕著な功績があると認められた者に授与する。
【技 術 賞】	第5条	技術賞は、Ⅰグループ：具体的なプロジェクトに関連して、土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる計画、設計、施工または維持管理等の画期的な個別技術（情報技術、マネジメント技術を含む）およびⅡグループ：土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる画期的なプロジェクトに授与する。
【環 境 賞】	第6条	環境賞は、Ⅰグループ：環境の保全・改善・創造に資する新技術開発や概念形成・理論構築等に貢献した先進的な土木工学的研究、Ⅱグループ：土木技術・システムを運用し、環境の保全・改善・創造に貢献した画期的なプロジェクトに授与する。
【研究業績賞、論文賞および論文奨励賞】	第7条	研究業績賞は、原則として、土木学会誌、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に発表した研究、計画、設計、施工、考案、維持管理などに関する一連の論文等の業績により、土木工学における学術・技術の進歩、体系化に顕著な貢献をなしたと認められる個人に授与する。 2 論文賞は、原則として、土木学会誌、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案、維持管理などに関する論文を発表し、独創的な業績を挙げ、これが土木工学における学術・技術の進歩、発展に顕著な貢献をなしたと認められる論文の著者に授与する。ただし、候補論文は単一の論文とする。 3 論文奨励賞は、原則として、土木学会誌、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案、維持管理などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術・技術の進歩、発展に寄与し、独創性と将来性に富むものと認められた若手研究者で、受賞者の年齢が受賞年の4月1日現在で満40歳未満である者に授与する。ただし、候補論文は候補者が筆頭著者の単一の論文とする。
【吉 田 賞】	第8条	吉田賞は、次の2部門に分けて授与する。 (1) 研究業績部門：コンクリートに関する技術の進歩、発展に顕著な業績を挙げたと認められる者を対象とし、各種刊行物に発表された論文、設計・施工・計画・考案などの報告等を参考とする。受賞候補者は個人とする。 (2) 論文部門：土木学会の刊行物に発表されたコンクリートに関する論文、報告等で、コンクリート工学の発展に大きく貢献したと認められるものを対象とする。受賞候補者は個人またはその複数とする。
【田 中 賞】	第9条	田中賞は、次の3部門に分けて授与する。 (1) 業績部門：橋梁に関する技術の進歩、発展や事業の形成・実施、調査、計画、設計、製作・施工、維持管理等における実践等において、顕著な業績を挙げたと認められる者を対象とする。受賞主体は個人とする。 (2) 論文部門：土木学会刊行物に発表された論文、報告等の中で、計画、設計、製作・施工、維持管理、利活用、考案、歴史・文化、普及・啓発などに関連して、橋梁工学への貢献が大きいと認められるものを対象とする。受賞主体は、個人またはその複数とする。 (3) 作品部門：新設あるいは既設の橋梁およびそれに類する構造物で、計画、設計、製作・施工、維持管理、更新、復旧などの面において特色を有する優れた作品を対象とする。なお、構造物に適用された特殊な技術、革新的な技術も作品とみなす。また、規模の大小は問わない。
【技術開発賞】	第10条	技術開発賞は、計画、設計、施工、または維持管理等において、創意工夫に富むと認められる技術（情報技術、マネジメント技術を含む）を開発、実用化し、土木技術の発展を通じて、社会に貢献したと認められる者に授与する。
【出版文化賞】	第11条	出版文化賞は、土木に関連する出版物で、土木工学・土木技術の発展に貢献し、あるいは読者に感銘を与えることにより、土木文化活動の一環となりうると認められた出版物の著者に授与する。
【国際貢献賞、国際活動奨励賞および国際活動協力賞】	第12条	国際貢献賞は、日本国内外の活動を通じて、国際社会における土木工学の進歩発展あるいは社会資本整備に貢献し、その活動が高く評価された日本人、並びに日本の土木工学の発展あるいは日本の土木技術の国際交流に貢献したと認められた外国人に授与する。 2 国際活動奨励賞は、海外における土木工学の進歩発展あるいは社会資本の整備において、現地での土木技術の発展に寄与し、国際貢献への活動が今後とも期待される日本人で、受賞年の4月1日現在で満50歳以下の者に授与する。 3 国際活動協力賞は、日本国内もしくはその他の国において、日本との交流・協力を通じて土木工学の進歩発展あるいは社会資本整備に寄与し、今後とも活躍が期待される外国人で、受賞年の4月1日現在で概ね満50歳以下の者に授与する。
【技術功労賞】	第13条	技術功労賞は、長年にわたる地道な努力の積み重ねを通じて土木工学の進歩または土木事業の発展に功労があった者に授与する。
【選考委員会】	第14条	土木学会賞のうち功績賞および技術賞を除く土木学会賞の選考にかかる作業を行うため、次の選考委員会を置く。各選考委員会は、選考結果を委員会に上申する。 (1) 環境賞選考委員会 (2) 論文賞選考委員会 (3) 吉田賞選考委員会 (4) 田中賞選考委員会 (5) 技術開発賞選考委員会 (6) 出版文化賞選考委員会 (7) 国際貢献賞選考委員会 (8) 技術功労賞選考委員会 2 各選考委員会の構成、運営、その他については、別に規則で定める。
【規程の変更】	第15条	この規程の変更は、理事会において行う。

応募に際しての留意事項

【共通】

- 同一の方が同一の候補に対して2以上の各賞に推薦または応募されることは認められません。また、別々の方が同一の候補に対して2以上の各賞に推薦または応募された場合は、推薦（応募）者相互間で調整していただきます。
- 推薦に際しては、予め受賞主体となる者の了解を得てください。
- 推薦はすべて個人名で推薦するものとします。法人会員、特別会員、海外分会、土木事業に関連する学・協会および海外協力協定学協会についてはそれぞれを代表する者あるいは土木学会長の認める者とします。
- 会員は定款第6条により、①正会員（個人会員と法人会員からなる）、②学生会員、および③特別会員（民間会社の支店、官庁の地方分局など）に分かれます。海外の協力協定学協会会員については、それを証明するものを添付してください。
- 各賞に関わる事前説明は固くお断りいたします。
- 推薦（応募）書用紙は本会ホームページより入手できます。取り出せない場合は、土木学会事務局総務課または各支部にお問合わせください。
- その他ご不明な点については土木学会事務局総務課（TEL 03-3355-3442）へお問合せください。

【技術功労賞の候補例】

- 技術功労賞の対象6分野における受賞候補の例を示しますので、応募の参考としてください。

(1) 教育・研究・啓発

- ①土木教育において長年実験実習等（OJT等職場での教育を含む）に携わった者。また、長年にわたって、教育方法の改善に役立つ、創意工夫を加えた者。
- ②実験、試験、研究、実験・試験機器の試作・改良に長年従事し、それらの促進に寄与する貴重な成果をあげることに貢献した者。
- ③土木工学を紹介する書物や映像の制作などに長年従事し、土木工学に対する一般大衆の理解を高めるなど、啓発活動に地道な努力を傾注した者。

(2) 調査・計画

- ①自然条件の観測、地形測量、図書、資料、統計データの収集、整理、分析、解析等に長年従事し、貴重な資料作成に貢献した者。
- ②長年の経験を生かし、プロジェクトの調査・計画に成果をあげた者。
- ③長年にわたって、環境問題を考慮したプロジェクトに貢献した者。

(3) 設計・監理

- ①各種土木構造物の設計あるいは監理業務に長年従事し、貢献をした者。
- ②長年の経験を生かし、土木構造物の設計に貢献のあった者。
- ③長年の経験を生かし、合理的な監理手法や検査方法の改良に貢献のあった者。

(4) 用地・補償

- ①事業遂行に向け、境界確定、用地取得、区画整理、漁業補償等の交渉に長年従事し、数多くの貢献を果たした者。
- ②用地取得、補償の実施に際し必要となる基準等に関する資料収集、調査、研究、整備に長年従事し、数多くの貢献のあった者。

(5) 施工・検査

- ①長年にわたって、事故防止のため、施工の安全高揚に精励し、多くの貢献を残した者。
- ②工事現場に長年従事し、機械化の推進や施工方法の改善、衛生的な事務所や宿舍の確保など労働環境の改善に貢献した者。
- ③長年にわたって、施工に関し、独自の検査方法を考案するなど品質の向上に多くの貢献があった者。

(6) 管理・運用・防災・保全

- ①長年にわたって、維持・管理業務に従事し、事故や災害を未然に防ぐために献身的に業務を遂行し、さらに業務の改善に地道な努力を行っている者（例えば、鉄道や道路、河川施設、港湾施設、上下水道、廃棄物処理場などの維持・管理業務）。
- ②各種の管理システムや運用システム、防災システム、保全システムについて、長年にわたり個々の技術やシステムの開発、改善に努め、省力化や省エネルギー化、効率化に貢献のあった者。
- ③土木構造物（敷地を含む）の安全管理や保全に長年従事し、貢献のあった者。

土木学会委員会等の表彰制度

令和2年度吉田研究奨励賞について以下のとおり候補を募集します。

この他、土木学会の各委員会等では別表のとおり各種表彰を行っています。詳細については、各賞の問合せ先にご確認ください。

◆吉田研究奨励賞募集要項

1. 候補対象	コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する研究に従事し、特に独創性があり将来性に富むと認められる者の個人または複数(3名以内)。ただし、応募締切時において満40歳以下の本学会員に限る。原則として、すでに吉田研究奨励賞を授与された者を除く。
2. 募集の方法	候補対象者本人の応募による。
3. 応募の方法	所定様式により研究計画書を提出する。計画書の様式は本会ホームページよりダウンロードし、日本語版と英語版のいずれかを使用すること。
4. 審査	吉田賞選考委員会において、研究計画を審査し、受賞者および賞金額を決定する。
5. 表彰	定時総会において行い、賞状および賞金を贈る。
6. 応募の締切期日	2021年1月20日(水)(17:00必着)
7. 提出先	〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) 土木学会吉田賞選考委員会
8. 研究成果の発表と報告	研究成果報告書を2022年12月末日までに吉田賞選考委員会に提出しなければならない。この報告書は研究計画終了翌年度の年次学術講演会あるいは土木学会刊行物において、吉田研究奨励賞を授与された研究であることを明らかにして発表しなければならない。ただし、この場合、被授与者以外の者を連名者に加えることはできるが、講演者または筆頭者にしないものとする。また、前記以外に発表する場合にも、吉田研究奨励賞を授与された研究であることを明記しなければならない。

(別表) 各委員会等所管の表彰制度紹介

名称/担当委員会	概要	募集時期	問合せ先
土木学会映画コンクール (映画コンクール審査委員会)	【第29回映画コンクール】1964年に第1回を開催してから2年ごとに行っており、今回は第29回となります。募集概要は、映画コンクール審査委員会ホームページをご覧ください。 http://committees.jsce.or.jp/cinema/ 土木学会会員はもとより、学生も含めた広く社会一般の方々に対して土木に関わる様々な事柄、すなわち、社会基盤整備や土木技術の実際、そこで活躍する人々などを映像を通して紹介し、それらに対する理解を深め、あるいは感銘を与え、また関心を高めることにより、社会基盤整備に対する適切な理解、土木技術の発展、土木技術者の資質と社会的評価の向上に資する優れた映像作品を顕彰し、その企画者、制作者を表彰する。	2020年10月1日 ～ 2021年1月 20日	事務局図書館・情報室 TEL.03-3355-3596
土木学会選奨土木遺産 (土木学会選奨土木遺産選考委員会)	選考の対象は、交通(道路、鉄道、港湾、河川、航空、灯標)、防災(治水、防潮、防風)、農林水産業(灌漑、干拓、排水、営林、漁港)、エネルギー(発電、炭田、鉱山)、衛生(上下水道)、産業(工業用水、造船)、軍事などの用途に供された広義の土木関連施設で、国内に存するもの又は邦人技術者が携わった海外に存するものを対象とする。単位は、事業又は構造物のどちらでも良い。		事務局総務課 TEL.03-3355-3442
水工学論文賞、水工学論文奨励賞 (水工学委員会)	水工学論文集に掲載された論文の中から優秀論文の選考を行う。 最優秀論文(1編程度)に対して水工学論文賞を、優秀論文のうち、水工学講演会での32歳以下の若手の発表者に対して、水工学論文奨励賞を授与する。		事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559
河川技術論文賞 (水工学委員会)	河川技術論文集に掲載された論文の中から優秀論文の選考を行う。 最優秀論文(1編程度)に対して河川技術論文賞を授与する。		事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559
海岸工学論文賞、海岸工学論文奨励賞、Coastal Engineering Journal Award、CEJ Citation Award (海岸工学委員会)	海岸工学論文賞：海岸工学論文集に掲載され、かつ海岸工学講演会において発表を行った論文のうち、海岸工学における学術・技術の進歩発展に寄与し、独創性および将来性に富むものと認められるものに授与する。 海岸工学論文奨励賞：海岸工学論文集に掲載され、かつ海岸工学講演会において講演を行った論文のうち、萌芽性あるいは独創性に富み、発展が期待される論文の執筆に携わった32歳以下の第1著者に対して授与する。 Coastal Engineering Journal Award：Coastal Engineering Journalに発表された論文のうち、海岸工学における学術・技術の進歩発展に寄与し、独創性と将来性に富むと認められた評価の高い論文に対して授与する。 CEJ Citation Award：Coastal Engineering Journalに出版された論文のうち、過去5年間で最高の引用数を得た論文に対して授与する。		事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559
環境工学研究フォーラム論文賞、奨励賞、環境技術・プロジェクト賞、優秀ポスター発表賞 (環境工学委員会)	審査付き論文セッションで行われる発表の中から論文賞と奨励賞を、環境技術・プロジェクトセッションの発表の中から環境技術・プロジェクト賞を、また自由投稿発表セッションの発表の中から優秀ポスター発表賞を選考する。	例年5月	事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559
地球環境技術賞、地球環境貢献賞、地球環境論文賞、地球環境優秀講演賞 (地球環境委員会)	技術賞：地球環境シンポジウムにおける展示、およびシンポジウム講演集に掲載された技術紹介の中で、地球環境問題の解決に貢献する土木・環境技術の開発および普及の観点から特に優れていると認められた展示あるいは技術紹介に授与する。 貢献賞：地球環境シンポジウムにおける展示の中で、地球環境問題の解決に貢献する活動の観点から特に優れていると認められた展示に授与する。 論文賞：地球環境研究論文集に地球環境問題に関する論文またはノートを発表し、	例年2月	事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559

名称/担当委員会	概要	募集時期	問合せ先
	これが土木・環境工学における学術・技術の進歩発展に独創的な業績を挙げ、顕著な貢献をしたと認められたものに授与する。 優秀講演賞：地球環境シンポジウム講演集に地球環境問題に関する論文を発表し、これが土木・環境工学における学術・技術の進歩発展に寄与し、独創性と将来性に富むと認められたものに授与する。		
環境システム優秀論文賞、環境システム論文奨励賞、環境システム優秀発表賞 (環境システム委員会)	環境システム優秀論文賞：環境システム研究論文集に掲載された論文から、環境システムに関して独創的な業績を挙げ、これが環境システムにおける学術・技術の進歩・発展に顕著な貢献をなしたものを選考し、授与する。 環境システム論文奨励賞：環境システム研究論文集に掲載された論文の著者から、環境システムにおける学術・技術の進歩・発展に寄与し、独創性と将来性に富むもので、受賞者の年齢が発表会開催年度の4月1日で満40歳未満であるものを選考して授与する。 環境システム優秀発表賞：環境システム研究論文発表会における発表から、ポスター発表による優秀ポスター賞と、口頭発表による優秀学生発表賞を授与する。優秀ポスター賞については、美しさ、わかりやすさ、ユニークさを、優秀学生発表賞については明快さ、スライドの良否、発表時間の厳守、質疑への応答の的確さを主たる評価の対象として選考する。	例年3月	事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559
デザイン賞、優秀講演賞・優秀ポスター賞 (景観・デザイン委員会)	デザイン賞：道路・街路・街並み・広場・公園・駅舎・河川・海岸・港湾・空港等の公共空間・公共施設や、駅舎・空港など公共性の高い建築、橋梁・堰堤・水門・閘門・堤防等の構造物等、実現した作品、あるいは公共空間で標準的に使用される製品や材料などを対象とし、計画や制度の活用、組織活動の創意工夫によって周辺環境や地域と一体となった景観の創造や保全を実現した作品およびそれらの実現に貢献した関係者の顕彰を行っている。また、公共空間や構造物は時間の経過の中でその機能の発揮が要求されるという特性を踏まえ、竣工後1年以上経過した作品を審査対象としていること、書類選考だけではなく複数の選考委員が現地にて実見審査を行うことなどが、本賞の特徴である。 優秀講演賞・優秀ポスター賞：研究活動及び実践活動への意欲向上に役立てることを目的として、景観・デザイン研究発表会において優れた口頭発表を行った若手研究者、実務者、及び優れたポスター発表を行った発表者に授与する。		事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559
構造工学シンポジウム論文賞、構造工学論文集優秀査読者賞 (構造工学委員会)	構造工学シンポジウム論文賞：構造工学論文集に掲載され、かつ構造工学シンポジウムにおいて講演を行った論文のうち、構造工学における学術・技術の進歩発展に寄与し、独創性および将来性に富むと認められた評価の高い論文に授与されるものである。 構造工学論文集優秀査読者賞：構造工学論文集の質の向上に顕著な貢献をいただいた査読員の方に対して、優秀査読者として顕彰し、優秀査読者賞を授与する。		事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559
鉄道工学シンポジウム論文奨励賞 (構造工学委員会)	35歳未満の若手研究・技術者の執筆・講演者のうち、優秀な論文・報告に授与されるものである。		事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559
複合構造シンポジウム優秀講演賞 (複合構造委員会)	複合・合成構造の活用に関するシンポジウムおよびFRP複合構造・橋梁に関するシンポジウムにおいて講演を行った40歳未満（シンポジウム開催年度の4月1日現在）の講演者を対象に、研究内容に加え、講演が簡潔明瞭で優れた者に対して授与する。		事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559
応用力学論文賞、応用力学論文奨励賞、小林メダル、応用力学功績賞 (応用力学委員会)	応用力学論文賞：応用力学論文集に掲載された論文のうち、応用力学における学術・技術の進歩発展に寄与し、独創性および将来性に富むものと認められるものに授与する。 応用力学論文奨励賞：応用力学論文賞に準ずる優れた論文のうち、発表年の4月1日において満36歳未満の著者に授与する。 小林メダル：土木学会論文集A2分冊（応用力学）特集号・通常号に掲載された論文のうち、独創性および将来性に富み、極めて優れた成果を上げた論文あるいは論文群の著者ないし著者グループに授与する。 応用力学功績賞：応用力学委員会設立から今日に至るまでに、応用力学の進歩、および応用力学委員会の発展に功績があった者に授与する。		事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559
舗装工学論文集優秀論文賞、奨励賞 (舗装工学委員会)	舗装工学論文集に掲載された論文の中から優れたものを優秀論文賞として選定して表彰する。 奨励賞は舗装工学論文集に掲載された論文の中から、40歳未満の若手研究・技術者が筆頭著者である論文のうち、優れたものを選定して授与する。（優秀論文賞該当論文を除く）		事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559
トンネル工学研究発表会優秀講演賞・優秀講演奨励賞 (トンネル工学委員会)	トンネル工学研究発表会において、簡潔明瞭で優れた講演を行った者に授与する。 優秀講演賞：簡潔明瞭で優れた講演を行った者に授与する。 優秀講演奨励賞：簡潔明瞭で優れた講演を行った30歳以下（講演日時点）の者に授与する。	例年3月	事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559
岩盤力学に関するシンポジウム優秀講演論文賞、優秀ポスター賞 (岩盤力学委員会)	岩盤力学に関するシンポジウムにおいて講演を行った論文の中で、原稿と発表の内容が非常に優れているものに対して授与する。 優秀講演論文賞：原稿と発表（口頭またはポスター）が優れたものに対して授与する。 優秀ポスター賞：原稿と発表（ポスター）が優れたものに対して授与する。		事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559
土木情報学論文賞、土木情報学論文奨励賞、土木情報学システム開発賞、土木情報学シンポジウム優秀発表賞 (土木情報学委員会)	土木情報学論文賞：前年の土木学会論文集F3（土木情報学）に論文を発表し、独創的な業績を挙げ、土木情報学における学術・技術の進歩・発展に顕著な貢献をなしたと認められた論文の著者全員に授与する。 土木情報学論文奨励賞：前年の土木学会論文集F3（土木情報学）に筆頭著者として論文を発表し、独創性と将来性に富み、土木情報学における学術・技術の進歩・発展に寄与したと認められた若手研究者で、年齢が受賞年の4月1日現在で満40歳未満である者に授与する。 土木情報学システム開発賞：土木学会論文集F3（土木情報学）あるいは委員会が主催		事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559

名称/担当委員会	概要	募集時期	問合せ先
	共催する行事(土木情報学シンポジウムなど)で発表・講演され、土木情報学における学術・技術の進歩、発展に顕著な貢献をなしたと認められたシステムを開発した者(原則5名以内)に授与する。土木情報学シンポジウム優秀発表賞:土木情報学シンポジウムにおける講演の中から、特に優れた発表を行った学生(博士後期課程および社会人学生は除く)を選び授与する。		
木材利用研究発表会、優秀講演賞 (木材工学委員会)	木材の土木分野への利用に関する研究・技術の発表の場である「木材利用研究発表会」において、木材利用技術の発展に寄与することが期待できる発表、且つ簡潔明瞭で優れた口頭発表を行った者に対し「優秀講演賞」を授与する。	例年8月	事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559
建設マネジメント論文賞、論文奨励賞、優秀講演賞、グッド・プラクティス賞 (建設マネジメント委員会)	論文賞:土木学会論文集F4(建設マネジメント)の通常号あるいは特集号に論文または報告を発表し、建設マネジメント分野における学術・技術の進歩、発展に顕著な貢献が認められる優れたものに授与する。 論文奨励賞:土木学会論文集F4(建設マネジメント)等に論文または報文を発表し、これが建設マネジメント分野における学術・技術の進歩、発展に寄与し、独創性と将来性に富むものと認められた若手研究者で、受賞者の年齢が受賞年の4月1日現在で満36歳未満である者に授与する。 優秀講演賞:建設マネジメント委員会が主査・共催する表彰対象年内の行事(建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会、公共調達シンポジウム、地域シンポジウム等)で発表または講演し、その内容が優れたものに授与する。 グッド・プラクティス賞:建設マネジメントの実務において、創意工夫に富み建設マネジメントの発展に貢献が認められる意欲的な取組み(例えば、事業執行方式、入札契約方式、現場運営活動(PM、CM等業務)、組織執行力向上のための活動等のマネジメント方式で、近年終了、あるいは現在進行している活動)で、土木学会論文集F4(建設マネジメント)に掲載、あるいは建設マネジメント委員会主催行事で発表のマネジメントに授与する。		事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559
土木史研究発表会優秀講演賞 (土木史研究委員会)	土木学会会員で、発表会開催年度末まで40歳以下である発表者本人(以下、一般)、および、発表会開催年度末まで30歳以下の学生(以下、学生)である発表者本人を表彰する。なお、在学中に執筆した論文を発表する新卒者は学生として扱う。また、表彰対象者は論文の筆頭執筆者か否かは問わないが、発表者として登録されていない代理発表者は表彰対象としない。		事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559
地下空間シンポジウム論文賞、論文奨励賞、講演優秀賞、講演奨励賞 (地下空間研究委員会)	「地下空間シンポジウム」に提出された講演論文(査読付論文及び一般投稿論文)のうち、内容が優れており、論文発表も明瞭で優秀と認められるものに、以下の賞を授与する。 1. 査読付論文:地下空間シンポジウム論文賞、地下空間シンポジウム論文奨励賞 2. 一般投稿論文:地下空間シンポジウム講演優秀賞、地下空間シンポジウム講演奨励賞		事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559
土木建設技術発表会優秀発表賞 (建設技術研究委員会)	土木建設技術発表会において、セッション毎に座長が各発表の技術的貢献とプレゼンテーションの総合評価を行い、優秀発表者を授与する。	例年11月	事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559
土木計画学研究発表会(秋大会)優秀ポスター賞	土木計画学研究発表会(秋大会)において、ポスターセッションを対象として、特に優れた発表を行った者を優秀ポスター賞として表彰する。受賞対象者は、学生(博士課程を含む)または学部卒業・修士修了後1年以内の社会人とする。		事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559
地震工学研究発表会優秀講演賞 (地震工学委員会)	地震工学研究発表会において特に優れた講演を行った若手研究者、技術者を地震工学研究発表会優秀講演賞として表彰する。地震工学研究発表会に著者として論文投稿し、かつ口頭発表を行った個人で、発表年度の4月1日時点で満40歳以下の者を対象とする。		事務局研究事業課 TEL.03-3355-3559